

# 今を未来に

令和3年1月28日(木)

## ○『2～5年生NRT』、『4～5年生みえスタディチェック』の結果及び『6年生全国学力・学習状況調査』の結果から

7月21日(火)に、NRT(2～5年生)、8月28日(金)にみえスタディチェック(4・5年生)をそれぞれ実施しました。この学力検査は、前年度の学年(例：2年生であれば1年生の時)の学習内容をどれだけ身に付けているのかを検査するためのものです。新しく出会った学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。そのためこの結果は、連絡表の評価対象外となっています。以下に、今年度の2年生から5年生までの学年の結果をお伝えします。また、「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてもお知らせします。

報道等がありましたので、皆様もご存知かと思いますが、今年度は、コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休業による授業時間の減少や全国の子どもたちが安全かつ安心して調査を受けることができないと判断されたため、6年生が例年受ける全国学力・学習状況調査は、今年度は実施をしないということになりました。しかし、使う予定であった問題は学校の実態に合わせて活用していくこととなりましたので、学校独自で調査を行うことになりました。2～5年生と同様、学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。そのためこの結果は、連絡表の評価対象外となっています。今回は、その結果をもとにした6年生の子どもたちの「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてもお知らせいたします。

本調査における47都道府県毎の正答率の差は、問題数にすると1問できるかできないかの範囲内にほとんどの都道府県が入っています。また、こうした都道府県間の差は年々縮小してきている傾向となっています。報道等により、こうした学力の一側面(数字に表れる学力)をもとにした結果の順位にばかり捉われてしまい、本来の目的(子どもたちの学力『保障』をするために指導の工夫・改善を図ること)が見失われる傾向が、ここ数年続いているという反省があります。

私たちが分析結果を公表するにあたり、平均に対してどうであったかはお伝えするものの、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を明らかにすることを大切にしていきたいと確かめ合いました。そして、家庭学習に関わる場所は、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きましたのでぜひご一読ください。

### 【6年生 全国学力・学習状況調査の結果より】 **今年度**

#### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

今年度は、全国学力・学習状況調査は一斉には行われず、各校判断の実施となっているため、公式な全国平均がありません。そこで、本校で実施した結果を、本校の昨年までのデータと比較しながら「強み」と「弱み」を書かせていただきました。

#### 2. 「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：漢字を文の中で正しく使うことができました。また、「書くこと」の表を用いた目的を捉え、短くまとめることがよく出来ていました。

算数：「数量関係」の中の問題文から必要な情報を読み取り、割合を使って基準量を求める計算をすることができました。また、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができました。

(弱み) 国語：「書く能力」において、条件を満たして書くことに対しての課題がみられました。文字数の制限がある中で、書かれていることを取りあげながら自分の意見をまとめるなど、条件に合わせて記述をする問題に課題がありました。

算数：「量と測定」の中の示された円周の長さの求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題に課題が見られました。

無回答もあり、回答が不十分となっているものもありました。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

2教科とも、無回答がありました。問題文を読み、聞かれていることが何なのかを読み取る段階で、何を聞かれているのかがわからなくなり、どのように記述したらよいかわからなくなるというような傾向が見られました。

子どもたちの正答率は、よかったと思います。朝の学習や算数の少人数授業で行っていることの成果が出たのでしょう。基礎学力のさらなる定着を図るために、朝の学習では計算や漢字などの基礎基本となる内容を継続していきます。

いずれの教科においても、書くことが課題となっています。国語では、短くまとめることは強みとなっていますが、条件に合わせて文章を書くことは弱みとなっています。算数では、考え方を説明する文章を書くことに課題が見られました。そのため、普段の授業から書く機会を多く設定するとともに、条件を提示したりキーワードを使ったりして、文を論理的に書くことのできるような力をつけていきたいと思います。算数ではノートに式だけを書くのではなく、解を導いた手順や考え方を文で表す活動をさらに積極的に取り入れていきます。

### 4. 家庭学習にかかわって

家庭学習振り返り週間の結果から見えてきた課題を、子どもたちの指導に役立てていきます。休日の学習時間が短く、ゲームやスマートフォンに依存しているという課題を子どもが自分で見直せるような働きかけを継続していきます。次のステップである中学校に向けて、国語や算数に限らず自主学習の課題も出しています。見通しを持って、時間等の計画を立て、内容を工夫する力をつけていこうとするものです。ご家庭でお子様がどのように取り組んでいるのかを見て、アドバイスしていただくと、お子様の学習状況をつかんだり、課題となる部分が見えやすくなるかもしれません。見えてきたこと、思われたことについて担任に教えていただくと、今後の指導の改善にもつながりますので、ぜひともお話を聞かせてください。

## 【5年生到達度検査NRT・みえスタディチェックの結果考察より】 今年度

### 1. 国語・算数の全国・県平均との比較にかかわって

国語は、話す・聞く能力が全国値よりも下回る結果となりました。書く・読む能力や言語についての知識・理解・技能も全国値よりもわずかに下回る結果となりました。

算数は、数学的な考え方が全国的にも正答率が低く、保々小学校でも同じ傾向があります。知識・理解は、全国値よりわずかに下回る結果となりました。

国語・算数ともに、多くの領域で全国平均・県平均を下回る結果が出ており、基礎学力の定着が大きな課題となっています。

### 2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：中領域別集計で「話の中心に気をつけて聞くこと」が全国値よりもわずかに下回ってはいますが、小問別集計では、「話の要点の聞き取り」が平均値よりも大幅に上回っていました。聞き取る力がついてきたように思われます。

また、中領域別集計で「辞典を活用する」が全国値よりも大幅に上回っていました。「画数・部首・音訓」は力がついており、強みになっています。

みえスタディチェックでは、「言語文化等」に関わる領域の7項目中3項目において県平均を上回る結果が出ていました。

算数：小問別集計で「半回転した角の大きさ」「展開図・直方体」「直方体の頂点の数」が全国値よりも上回っており、弱みの多い算数の中で、一定の成果が見られました。みえスタディチェックでも、「数と計算」領域において県平均を上回る項目がありました。

(弱み) 国語：「話すこと・聞くこと」が弱みとして見られました。特に話す力の「意見を聞き話し合う」「話すときの工夫」に20%未満と課題が見られます。

みえスタディチェックでは、「書く」ことに関する領域の全ての小問において、県平均を10%以上下回る結果が出ていました。無回答率は高くありませんので、問われていることをきちんと理解し、問題に合った回答が書ける力を身に付けていく必要があります。

算数：どの項目も全国値より低く、数学的な考え方に課題があります。特に「面積」「資料の分類整理、折れ線グラフ」は、大きな課題が見られます。

みえスタディチェックの結果からは、「量と測定」「数量関係」に関わる領域の理解が、特に弱いということが分かってきました。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

「書くこと」に対して、苦手意識や抵抗感を持っている子が多くいます。国語の学習の中で、まずは短めの文章から正しく書く練習をさせていきたいと考えています。また、文章の間違いを、そのままにしておくことがないようにも気をつけていきたいです。間違っているところは正しく書き直すことを、子どもたちに徹底させるようにしていきます。

NRTやみえスタディチェックの結果から、読解力が不足していることも明らかとなってきました。読解力をつけるためには、やはり文章を読む経験を積ませることが必要です。読書活動や音読に、今後より一層力を入れていきたいと考えています。読書をしたり、音読をしったりすることは、「書く」力をつけることにもつながります。学校では、読書経験の豊かさや素敵な音読を評価する声かけを増やしていくことで、「読むこと」に対する価値づけを行っていきます。

算数では、基礎的なことを大切に、全員がきちんとわかる授業にしていかなければなりません。学習内容を定着させるための反復練習も、増やしていく必要があると感じています。宿題以外にも子どもたちが多くの練習問題に取り組めるよう、授業の始めや終わりに定着タイムを設けるなどの工夫をして、学習内容の定着を図っていきます。子どもたちが苦手としている「面積」や「体積」、「概数」などの学習については、授業の中でも復習する時間を設けていきたいと考えています。

### 4. 家庭学習にかかわって

5年生の子どもたちは、学校から出される宿題には、毎日まじめに取り組むことができます。ただ、もう高学年になりましたので、やはりそれにプラスアルファがほしいところです。子どもたちの中には、毎日自分で考えて自主学習に取り組んでいる子もいますが、それはまだ一部の子に限られています。「今、自分に足りないものは何か」「今、自分は何をやるべきか」ということを考えて自主学習に取り組むことができれば、より効率的に学力を高めることができます。自分で考えて学習することによって、思考力を高めることもできると思います。学校では、友だちが取り組んでいる自主学習の内容を紹介したり、自主学習ノートを交換したりすることで、子どもたちの学習意欲を喚起し、自主学習の仕方を学ばせる取り組みを行っています。高学年とは言え、まだ自分一人では何を学習したらいいのか分からないという子もいると思いますので、ご家庭においても、保護者の方から学習方法についてのアドバイス等をしていただくと助かります。

子どもたちが強い苦手意識や抵抗感を持っている「書くこと」に関しては、家庭学習における音読をもっと大切にしていってほしいと思います。国語の教科書に載っている文章を繰り返し声に出して読むことは、「書

く」力の向上にも効果があると考えられます。教科書のお手本となる文章から、文章言葉や言い回しなどを音として覚えておけば、それをもとにして自分の文章が書けるようになります。黙って本を読む読書活動にも同様の効果があります。読解力にも課題が見られますので、文章に触れる機会が何よりも大切なことだと考えています。

## 【4年生到達度検査NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

今年度

### 1. 国語・算数の全国・県平均との比較にかかわって

国語・算数の正答率はともに全国平均と比べると全体として上回っている状況です。教科総合の偏差値で50（全国平均）を上回る割合が約60%を超えており、下位群も偏差値 50あたりに集中しています。

### 2. NRT・みえスタディの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「話すこと・聞くこと」に関しては多くの子が理解しています。話の細部の聞き取りの力もついています。「言語についての知識理解」の中でも特に漢字の読みについてはよく理解しています。

算数：「数と計算」「数量関係」については多くの子が理解をしており、基本的な力が身についています。四則計算の力がついており、特に分数の計算については正答率は98%でした。

(弱み) 国語：「要点をまとめて書く」「筋道を立てて話す」などに課題があります。提示された条件に合わせて書くことへの課題が大きいと考えます。課題に沿って話し合うことへの力、条件に合うものを資料や文章から見つける力をつけていく必要があります。また、「言語についての知識理解」の中でも「漢字の書き」にやや課題があります。

算数：「数学的な考え方」に課題があります。きまりや性質を使って説明する力をつける必要があります。特に「二等辺三角形の説明」については、10%が正答、50%が未回答となっております。

また、NRTの結果より、無回答数が後半に集中していることから、問題の内容を理解するのに時間がかかり、1つ1つの問題に取り組む時間が長くなっていると思われる。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語については、条件に合わせて自分の考えをまとめる力をつけるため、普段の授業においても、条件に合うものを資料や文章から見つけたり、キーワードを提示して書いたりする活動に取り組んでいきます。「書く」について抵抗感がある子どもが多いのは、書いたものに自信がないからであると考えます。子どもの作文を読み聞かせたり、読みあったりすることで「このように書けばいいのか」と見通しを持たせていきたいです。

「漢字の書き」にやや課題があります。くり返し学習するだけでなく、文章中でどのように使われているのか、国語辞典で意味調べをしながら漢字の使い方を学ぶ活動を取り入れていきます。

算数においては、きまりや性質を使って説明する力をつけていくために、子どもたち同士がお互いの説明を聞きあい、学習課題を解決していくよう心がけます。またタブレットとネットワークのシステムを活用し、子どもたちがより多くの子どもたちの考えを共有できるように取り組みます。

問題の内容を理解するのに時間がかかり、1つ1つの問題に取り組む時間が長くなっていることは普段のテストの取り組み方からもうかがえます。何が問われているのか、何をするのか、何を活用すれば課題が解決できるのかを学習活動の中で確認しながら学習をすすめていきます。

### 4. 家庭学習にかかわって

4年生の家庭学習の時間は50分です。漢字の学習では子どもたちに、熟語や短文で書くことで漢字が良く理解できると話しました。ただくり返し書くのではなく、ドリルや教科書、漢字辞典などを活用して漢字の持つ意味を理解しながら進めてほしいと思います。音読は、声に出して読んでいるでしょうか。教科書に読み仮名が書いてある子もいれば、読むときになって何と読むかわからないという子もいます。ぜひ音読を聞いてい

たきますようお願いいたします。算数の宿題は基本、復習で計算など基本的な知識・技能にかかわるものを出しています。自分がどこがわかっていて、どこでつまづいているのかを確かめることが家庭学習で大切だと考えています。子どもには、わからないところは提出の時に先生と一緒にやるように伝えていきます。おうちでも見ていただき一緒に考えていただきありがとうございます。今後も家庭、学校で連携しながら子どもの学習状況を見ていきましょう。

### 【3年生到達度検査NRTの結果考察より】

今年度

#### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語・算数ともに、わずかに全国平均を下回っていました。観点別にすると、全国平均を上回っているのは、国語の「伝統的な言語文化と国語の特質」と算数の「数量関係」です。

#### 2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「伝統的な言語文化と国語の特質」は全国比101であり、基本的な力については、

算数：「数量関係」は全国比106であり、一定の学力が付いていると考えます。

(弱み) 国語：「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」とそれぞれ全国平均を下回っています。特に、「話題によって話し合うこと」の領域が弱く、全国平均の正答率が4.2ポイント下回っています。

算数：「図形」が全国平均を大幅に下回っています。その中でも、「正方形、長方形、直角三角形など」が全国比83であり、学びなおしが必要であることがわかりました。

#### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を授業でバランスよく取り入れていきます。その中でも、話し合い活動を多く行い、自分の意見を相手に伝えるように話をすること、友だちの意見をよく聴き理解することの指導を継続して行っています。

算数では、「図形」の基礎的学力を底上げするために、新しい単元を学ぶ前に振り返りを行い、2年生までの知識を学びなおしできるように授業改善を図ります。また、算数の学習用語を活用して説明ができるように、説明する活動を多く取り入れていきます。

#### 4. 家庭学習にかかわって

毎日の家庭学習の習慣は身に付きつつあると思います。週末にする自主学習では、自分の得意分野や興味関心が高い分野を自主学習している児童が多い傾向にあります。しかし、苦手分野の克服も大切ですので、自主学習で、苦手分野への積極的な取り組みも行ってほしいと思います。

### 【2年生到達度検査NRTの結果考察より】

今年度

#### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

偏差値平均が、国語は51.2算数は51.4となり、国語と算数ともに全国水準を多少上回る結果となりました。

#### 2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：中領域別に見ると「言葉の意味やまとまりを知る」「話題にそって話し合うこと」については、力がついていることがわかりました。

算数：大領域別に見ると、どの領域も特に問題なく理解できていると言えます。

(弱み) 国語：「言葉の正しい書き方を知ること」は、全国平均を下回っていて、課題があります。

算数：「時計の読み方」「ものの位置」は、全国平均をともに下回っていて、課題があります。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は、「言葉の正しい書き方を知ること」に課題があります。文章を書く時には『は』『へ』『を』や、『や』『ゆ』『よ』などの言葉の正しい使い方を確認しながら進めていく必要があります。文を書いた後に、声をだして読み、確認する作業を入れるなど、正しく書けているか確かめながら進めていきます。

算数は、「時計の読み方」と「ものの位置」に課題があります。「時計の読み方」については、今は何時何分かな、次の授業は何時から始まるのかな、というように、生活の中での時計を見る機会を増やす声かけを意識し、いつも時計を見るようにさせていきます。「ものの位置」については、前から・後ろから・右から・左から・上から・下からという言い方を普段から意識して使うようにしていきます。

### 4. 家庭学習にかかわって

毎日の家庭学習（漢字・計算・音読）は定着してきています。そこが基礎的な学力の定着に繋がっているように思います。ただし、宿題以外の家庭学習については、やる家庭とやらない家庭では差がついています。これから中学年高学年に向けて、宿題以外の自主学習など、自分で学習に取り組むことができる素地づくりを進めていきます。

#### 【おわりに】

この内容は、子どもたちにも各担任から学年や発達段階に応じたかたちで伝えます。結果をもとに、教職員間で授業改善を図ってきたつもりですが、課題となる姿がまだまだ見られるのが現状です。もちろん教員の専門性として、授業づくりの力を高めることが必要です。校内でも研修を進め、子どもたちの「困り感」を土台とした「きき合い・語り合う授業づくり」を進めようとしているところです。これによって、子どもたちがなかまとともに「主体的で対話的な深い学び」をすることにつながり、学力がついていくと考えています。学校全体としては、子どもたちが自分の意見を出すことや、なかまと考え合うことが、自分やなかまの学力保障につながっていると実感しつつあるところです。今後も、指導の工夫や改善に努めてまいります。